

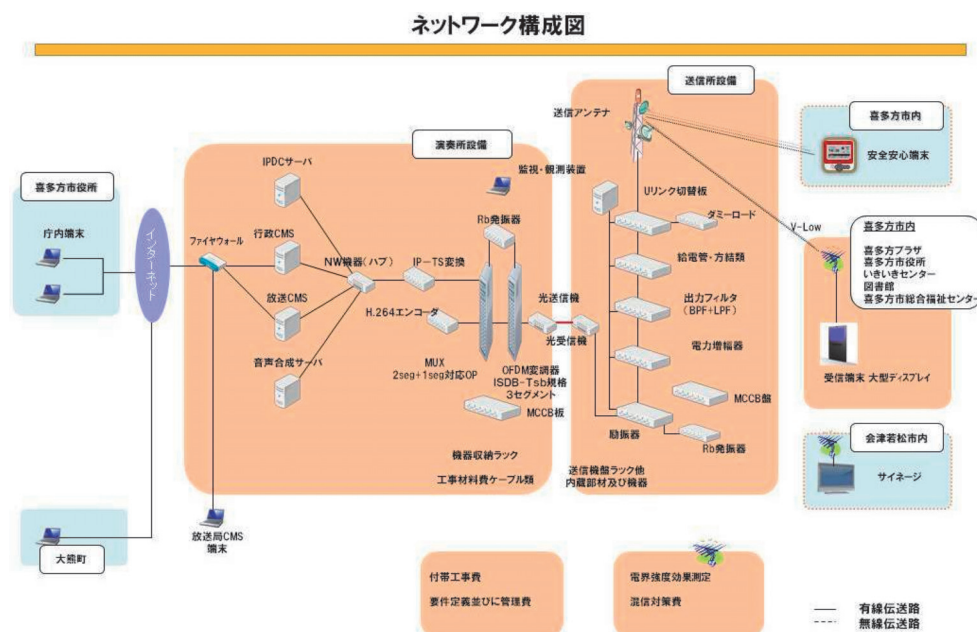
(東北被災地におけるICTを活用した取組－2)

V-Lowマルチメディア放送を活用したきずな再生・強化事業 (福島県喜多方市・双葉郡大熊町)

〔概要〕

喜多方市及び大熊町では、V-Low(ブイロー)マルチメディア放送技術を活用し、東日本大震災による被害並びに福島第一原子力発電所事故の影響を受けて、会津若松市及び喜多方市を中心に避難生活を余儀なくされている大熊町民に対し、絆コンテンツ(文字、音声、画像、動画)の提供によりふるさと(大熊町)との“きずな”の維持を支援し、大熊町の復興を促進することを目的として「ICT地域のきずな再生・強化事業」の交付決定を受け、V-Lowマルチメディア放送技術を利用したプラットフォーム(編集、放送設備及びデジタルサイネージ)を構築しました。

※V-Lowマルチメディア放送:テレビ放送の地デジ化による空き周波数のうち、VHF-Lowと呼ばれる周波数帯(90～108MHz・アナログテレビの1～3chに相当)を使用し放送する予定のデジタル放送。高音質音声・文字・画像・動画のほか、データを蓄積し再生する蓄積型放送が可能。また、地域指定も可能であるため防災などでの活用が期待されている。



(出展:喜多方市提供資料)

〔コラム〕

喜多方市では、文字・音声・画像・動画などが配信でき、さらにEWS(緊急警報放送)による自動起動が実現可能となるV-Lowマルチメディア技術について、防災行政無線の代替として活用できないか着目していました。

この様々なコンテンツが配信可能な技術を大熊町民の“きずな”維持の支援に役立てることが可能であると考え事業申請を行い、平成24年度にシステムの構築を行っています。

放送サービスは、大きく“きずな”維持の支援を行う「絆コンテンツ」、地元コミュニティFM放送局が行っている支援放送をサイマル放送する「音声コンテンツ」、緊急警報や平時の行政情報(喜多方市や大熊町などの行政情報)

を配信する「安全・安心コンテンツ」で構成され、「絆コンテンツ」及び「安全・安心コンテンツ」を市内5箇所及び会津若松市15箇所のデジタルサイネージで提供しています。デジタルサイネージの受信端末では「音声コンテンツ」についても切り替えにより聴取可能な仕様としています。



(出展:喜多方市提供資料)

システム構成は、行政CMS、音声合成サーバや放送CMSなどの「放送プラットフォーム」、多重化装置やOFDM変調器などの「演奏所設備」、電力増幅器などの「送信所設備」で構成されています。

実験試験局の免許及び運営は、会津若松市、喜多方市及び大熊町で構成する「きずなプロジェクト連絡会議」や地元コミュニティFM放送局などが加入する「喜多方・会津地方V-Low実証実験協議会」が行い、大熊町の支援のほかに防災行政無線の補完・代替としての検証や平時の情報等の発信、放送としてのビジネスモデルの調査研究を行っています。

今後も、引き続き“きずな”維持の支援を行うとともに、防災行政無線の補完・代替としての可能性の検証や平時の活用方法についての調査研究を行っていきます。

(問い合わせ先)

- ・福島県喜多方市 市民部生活環境課
- ・TEL:0241-24-5221/FAX:0241-22-9571
- ・e-mail:seikatsu@city.kitakata.fukushima.jp